

そうだったの!?

言葉や国語について考えるこの欄は、文化庁の「国語に関する世論調査」などを参考にしている。

福の神になった貧乏神

七福神と同じくらい有名(!?)なのが貧乏神である。ついていない、うまくいかない、いつも金がない…。ないないづくしの御仁は、きっと自分には貧乏神がついていると嘆く。

貧乏神神社があった。長野県飯田市に1998年に建立されたもので、名前のユニークさでマスコミから取材攻勢を受けている。

説法には、こうある。「貧乏とはお金のことではない! こころの問題です」「こころの貧しい人が一番の貧乏人です」

うなづく人、目からウロコと感じる

人。お金がなくても勇気・やる気が出てくる。

東京・文京区の北野神社境内にある太田神社には貧乏神についての記述がある。その御由緒が興味深い。北野神社公式サイトから引用する。「昔々、小石川の三百坂の処に住んでいた清貧旗本の夢枕に一人の老婆が立ち、『わしはこの家に住みついている貧乏神じゃが、居心地が良く長い間世話になっておる。そこでお礼がしたいのでわしの言うことを忘れず行うのじゃ…』』と告げた。

正直者の旗本はそのお告げを忘れず、実行した。すると、たちまち運が向き、清貧旗本はお金持ちになる。

そのお告げとは――。

「毎月、1日と15日と25日に赤飯と油揚げを供え、わしを祭れば福を授けよう…」

成功者は聞く耳をもち、約束を守る、チャレンジ精神がある、信心深い…。できそうなことを実践すれば、いい結果をもたらすと受け取れる。

貧乏神が、いいことを教えてくれた。